令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰　被表彰者名簿（公立）

No.	学校名 表彰候補者名	事例概要
1	天理市立 前栽小学校 にしつじ　まさよ 西辻　雅代	**子どもたちが楽しく学習に取り組み、生き生きとした学校生活を送るために** 平成28年度より、教職員の授業力を向上させるために、「授業力向上ウィーク」を実施した。この取組は、年間２回、１週間をかけて全ての教職員に授業を公開させ、それを他の教職員が参観することで、授業者、見学者ともに授業力を向上させるものである。 平成30年度は１年生を担当し、「小１プロブレム」の問題に取り組んでいる。実際に幼稚園を訪問し、保育の様子を見せてもらうことで声かけや支援の仕方も学んでおく。その上で授業を進め、どの部分で子どもたちがしんどさを感じるのかを理解し、学習を進めるなど、保幼小の連携を意識して進めている。 これらの取組は全て、子どもたちの学習に活かされている。１年生のスタートカリキュラムを大切にし、そして何より、教職員の授業力を向上させることで、子どもたちが生き生きと授業に取り組めると考えている。
2	香芝市立 志都美小学校 くまだ　あきこ 熊田　晃子	**生涯にわたり、健康で豊かな生活を～歯と運動の保健教育から～** 養護教諭として児童の日々の健康管理はもちろん、保健指導や身体状況の情報収集に取り組み、保健教育や教育相談などで児童や保護者への適切なアドバイスを行っている。また、県の学校保健課題解決ワーキング会議のメンバーとなり、運動器検診事後処置文書を作成したり、保健課題の解決に向けた様々な取組を行っている。校内では、保健衛生環境を向上させるため、救急、感染症防止等のマニュアルを作成周知し、組織として対応する仕組みを整えた。 市の養護部会では学校保健総合管理ソフトを市内の全小中学校に導入し、成長曲線の普及やデータの管理及び中学校への引継ぎをスムーズにする等、市全体の学校保健の向上に努めると共に、市全体の体育・健康データを共有し指導の改善に役立てる等先進的な取組を行っている。
3	大和高田市立 片塩小学校 にのみや　みよこ 二宮　美代子	**学校全体で取り組む食に関する指導について** 栄養教諭として本校に着任後、給食室との連携に努め、安全な給食の提供に貢献している。毎月「食育だより」を発行し、家庭に対する啓発も行っている。また、家庭科の教師、地域の食育ボランティアの方々と一緒に発達段階に応じた体験活動を企画運営したり、農作物の生産者をゲストティーチャーに招き、食を通して地域とのつながりを発見できるような学習を企画運営したりと、本校の食育推進の中心となり活躍している。 さらに、保護者が参加する「給食試食会」において、調理員と連携し安全でおいしい給食を提供するための工夫をＩＣＴ機器を用いて分かりやすく説明した。朝ごはん啓発を目的とした「親子料理教室」など、食育推進の取組は保護者から好評を得ており、信頼につながっている。
4	橿原市立 光陽中学校 もりおか　いくよ 森岡　育代	**不登校生徒等、支援を必要としている生徒に寄り添い、共に次の一歩を見いだす取組について** 本教諭は、非行傾向を示す生徒はもちろんのこと、引きこもりの状況にある生徒まで、どの子に対しても、何らかの学校生活を過ごす場所の確保に向けた取組が実践できるよう、全職員の共通理解が得られるための努力を長年重ねた。その結果、不登校傾向にある生徒や、不登校状態から一歩脱出しようとする生徒が、自分のペースで慌てず少しずつ通常の学校生活を過ごすことができる場の確保を学校体制として本格始動できることとなった。 また、一昨年から当該校の低学力傾向を改善するために、校内研修や公開授業の企画運営を先頭に立って行うと共に、不登校生徒の学習保障や集団生活に馴染めない生徒に対して、個別対応の機会づくりによって、少しでも基礎学力が身に付くよう時間割づくりやカリキュラムの編成に力を注いだ。
5	奈良県立 吉野高等学校 なかくぼ　たかのり 中久保　孝徳	**吉野地域における人々との連携･協働について** 吉野高等学校は116年の歴史と伝統をもつ、農業科と工業科を有する専門高校である。本教員は森林科学科教員として、地元吉野の素晴らしい自然的かつ文化的な景観や生物多様性を次世代に継承する人材育成に繋がる活動を積極的に取り入れてきた。また、吉野町の幼・小・中学校の教職員を対象に本校演習林での間伐作業等を含めた森林環境教育を実施し、地域の環境教育について他校種間の教員同士で話し合いができる場を設けた。 現在、吉野町が立ち上げた地域力創造人材育成と「木のまち吉野」再生プロジェクトにおいて、吉野高等学校もプロジェクトの中で、専門性をこれまで以上に発揮したり、地域の将来像について高校生の視点で提言したりできるような次世代人材育成の場として期待されている。

No.	学校名 表彰候補者名	事例概要
6	奈良県立 十津川高等学校 いなだ　えいさく 稲田　栄作	**地域と連携した総合的な学習の時間「吉野熊野学」の実践について** 十津川村の連携型中高一貫教育では、６年間を貫く教育の柱として、中学校で「ふるさと学」を学び、高校では「吉野熊野学」を学んで地域学習をさらに深めている。本教諭は、郷土の遺産を教材として、学校所在地である十津川村及びその周辺地域に深い理解と愛着をもち、その美点を全国へ発信できるような生徒の育成に取り組んできた。また、多くの教員が円滑に「吉野熊野学」を担当する体制をつくったことで、生徒の課題解決能力やコミュニケーション力の向上につながった。これらの取組を基礎として、平成31年度から新設される「ふるさと共生コース」の柱となる、ボランティア活動（観光・福祉・被災地支援等）や防災活動を実践する新しい学校設定科目「ふるさと学」の新設に尽力している。

令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰　被表彰教職員組織名簿（公立）

No.	組織名	事例概要
1	奈良県立 大淀養護学校 しえんきょういくぶ 支援教育部 「つむぎ」	**支援教育部「つむぎ」のセンター的役割を通した地域連携について** 平成29年度より、地域に出向いて教育相談を行う支援教育部「つむぎ」の活動を開始した。インクルーシブ教育システム構築の流れにあって、障害の状態が重い子どもたちが、地域の学校に通うケースが増え始めているため、６名の特別支援教育コーディネーターが地域の学校・園に出向き、特別な支援の必要な児童生徒の家庭や学校生活、学習活動などの指導・支援を行っている。地域での特別支援教育の専門性を高め、若手の人材育成を視野に入れながら、教育相談を行っている。 夏期休業中には３日間の「実践ヒント交流会」を実施し、地域の学校の先生方とともに授業や日常生活の指導等を一緒に考え、地域校の実情を知るとともに、職員交流を積極的に行っている。「つむぎ」は、特別支援教育センター校と地域校とのネットワークを形成し、一方向ではなく、Win-Winの関係で互いに学び合う双方向での関係構築を進めている。

＜参考＞　令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰　被表彰者名簿（国立・私立）

No.	学校名	事例概要
1	奈良女子大学 附属幼稚園 まつだ　とき 松田　登紀	**先進的な研究の推進、教員の資質向上及び地域の教育力向上への貢献について** 同人は、主体的で創造的な保育を実践し、その成果を広く社会に啓蒙してきた。研究部長として当園の研究を積極的に推進し、公開保育研究会で研究成果を発信している。また、個人的にもテーマを決めて研究し、奈良女子大学教育システム研究開発センター紀要や日本保育学会で実践報告の発表を行っている。また、附属小学校及び附属中等教育学校と共同で指定された文部科学省の研究開発学校の研究リーダーとして研究を進めて成果を上げている。さらには、教員の資質向上を図るために園内研修やリカレント研修を企画するなど、研究リーダーとしての活躍がめざましい。奈良市の保育者初任者研修や生駒郡の研修の講師を務めたり、大津市の派遣研修者を受け入れたり、地域の教育力向上にも努めている。
2	天理教校学園 高等学校 みくに　すこっと けんじ 三国スコット健二	**英語教育全般に対する多大なる貢献について** 当校前身の天理教校親里高等学校に奉職以来、２０年以上にわたり、持ち前の米国文化に対する深い知見とネイティブスピーカーとして、当校の英語教育の要の人材として活躍しています。現在は当校の２群（英語コース）の主任教員として、教科授業の充実に努めるとともに、校内全体の語学教育環境の充実強化に尽力し多大なる成果を上げており、ひいては語学担当教員の技量向上にも大きく寄与しています。また、当校２群の毎年の海外語学研修では、その発足当初から企画調整実施までを責任を持って努めている。